

事業報告書

【第13期】

2025年度

自：2025年4月 1日

至：2026年3月31日

公益財団法人 日本漢字能力検定協会

事業報告書 目次

I. 事業の概要.....	2
1. 日本語・漢字に関する普及啓発・支援活動.....	2
2. 日本語・漢字に関する調査及び研究活動	5
3. 日本語・漢字に関する能力育成活動	7
II. 理事会・評議員会に関する事項.....	14
III. 運営体制の充実を図るための取組.....	15
IV. その他.....	15
V. 後発事象	15
VI. 附属明細書	15

I. 事業の概要

伝統ある日本文化の発展の過程において、日本語・漢字は文化の伝達と進展を根幹で支えてきました。公益財団法人 日本漢字能力検定協会は、社会生活に必要な日本語・漢字の能力を高め、広く日本語・漢字に対する尊重の念と認識を高めるとともに、我が国における生涯学習の振興を通じて日本文化の発展に寄与することを目的としています。

この目的を達成するために、本年度も国内および海外において次に掲げる公益事業に取り組み、あらゆる人々の日本語・漢字の“学び”を支える活動を行いました。

事業（定款第4条1項）

1. 日本語・漢字に関する普及啓発・支援活動
2. 日本語・漢字に関する調査及び研究活動
3. 日本語・漢字に関する能力育成活動
4. その他この法人の目的を達成するために必要な事業

1. 日本語・漢字に関する普及啓発・支援活動

社会生活に欠かせない日本語・漢字に対する興味関心、尊重の念を抱き、生涯にわたって学習する動機付けや、言語生活が豊かに育まれる環境を整備するため、次に掲げる（１）～（５）の手段により、普及啓発・支援活動を行いました。

（１）漢検 漢字博物館・図書館（漢字ミュージアム）の運営

日本語・漢字に対する興味関心を高め、不特定多数の人々の学びの動機付けや促進につなげることを目的に、漢字に関する情報の収集や発信、展示を通して漢字の“面白さ”“楽しさ”“奥深さ”を体感しながら学ぶことのできる「漢字ミュージアム」を運営しました。なお、当館は、2023（令和5）年4月から始まった新たな博物館登録制度による登録博物館に指定（2025年2月21日）されています。

本年度の来館者数は79,141人となり、幅広い年齢層や国内外の来館者に対して、漢字や日本語の文化に触れる機会を提供しました。

①開館日数：304日

②開館時間：午前9時30分～午後5時

③休館日：原則、毎週月曜日（休館日が休祝日の場合は翌平日に振替）・年末年始

④利用料：

大人		大学生・高校生		中学生・小学生		未就学児	障害者
個人	団体	個人	団体	個人	団体	無料	無料
¥800	¥700	¥500	¥400	¥300	¥200		

*団体は20名以上（団体引率者は10名につき1名免除）／障害者の介護人（1名）免除

○割引・特典制度

- ・修学旅行・課外学習グループ割（2名以上のグループ）
- ・小中高生1名以上と同伴している大人の割引（2名まで）
- ・漢検生涯学習ネットワーク会員割
- ・JAF会員割（会員本人含む2名まで）
- ・年間パスポート（発行日から1年間有効）

大人	大学生・高校生	中学生・小学生
¥2,500	¥1,600	¥1,000

⑤ワークショップ・講座・講演会の実施

館内でのワークショップ、出張ワークショップ等の活動を行いました。また、京都市内博物館施設連絡協議会と連携し、博物館講座（京都市民講座）として館長による講演会を実施しました。

「漢字の面白さ」 2026年2月4日 受講者数 52人

⑥企画展の開催

展示室の活用方法を工夫することで企画展の回数を増やし、より多くの来館者に学びや漢字の魅力への気づきの機会を提供しました。

「漢字で感じる色めぐり」	(2024年10月29日)～5月6日	期間来館者数	6,621人※
「今年の漢字®展」	(2024年10月16日)～5月6日	期間来館者数	6,621人※
「かぶる漢字-WEARABLE KANJI-」	5月20日～9月28日	期間来館者数	30,209人
「妖怪漢字 魍魎魍魎 百鬼夜行」	5月29日～10月13日	期間来館者数	32,039人
「今年の漢字®展」	10月21日～2026年2月23日	期間来館者数	29,609人
「最高の景色を」	10月30日～(2026年7月20日)	期間来館者数	36,044人※
「名はどう読まれているか」	3月17日～(2026年5月17日)	期間来館者数	5,704人※
「ポップな四字熟語展～擲果満車ってどんな意味?～」	3月17日～(2026年5月17日)	期間来館者数	5,704人※

※会期が前年度または次年度にまたがるため、2025年度中の来館者数で算出

(2) Webサイトの運営

不特定多数の人々が時間や場所を選ばず、情報へアクセスできる環境を提供することで、日本語・漢字への興味関心の向上と教育現場における日本語・漢字教育の充実に寄与しました。

① 漢字・日本語検索サイト「漢字ペディア®」 <https://www.kanjipedia.jp/>

漢字および日本語の学習を助け、さらなる興味関心を高めるための活動として、無料で漢字・日本語を検索できるサイト「漢字ペディア」を運営しました。このサイトは『漢検 漢字辞典 第二版』に掲載された漢字および語句のデータをもとに製作したもので、角川「新字源 改訂新版」と連携して漢字の成り立ちに関しても付加しています。パソコンやスマートフォンなどから調べたい漢字や語句をいつでも検索することができます。1,608万ユーザー／年度

② 漢字・日本語 Web マガジン「漢字カフェ®」 <https://www.kanjicafe.jp/>

漢字および日本語への興味関心を高めるための活動として、漢字・日本語に関する Web マガジン「漢字カフェ」をリニューアルしました。2023年度をもって発行を休止した『漢検ジャーナル』に掲載していた漢字クイズ、巷の漢字・日本語に関する情報など、身近な言葉に関する話題から学術的な話題までを分かりやすく伝えています。年間記事登録数 82件 54.9万ユーザー／年度

③ 言語活動に取り組む先生のためのサイト「TEACHannel」

<https://teachannel.kanken.or.jp/>

「主体的・対話的で深い学び」を実現するための中心的な学習活動に位置づく「言語活動の充実」に資するために、言語活動に取り組む先生方に情報を提供する会員制ポータルサイトを運営しました。全教科の学びを支える「言語活動」に役立つ情報をお届けしています。累計記事掲載数：実践事例 99件 コラム 156件 9.8万ユーザー／年度

④ 「漢検 団体サポートサイト」 <https://www.kanken.or.jp/dan-spirt/>

各団体における目標達成や課題解決のために、検定（漢検・文章検）や各種協会コンテンツをより効果的にご利用いただくためのサポートサイトを運営しました。検定をご実施いただくにあたって、団体ご担当者の手間を軽減するために、さまざまなシーンでご利用いただける各種資料・ツールやT o D oリスト付きのスケジュール等をご紹介します。4.9 万ユーザー／年間 ファイルダウンロード数3 万／年度

（3）漢字文化啓発イベント

一年の世相を表す漢字一字や想いを込めた漢字を考えるイベントを開催することで、漢字の素晴らしさや奥深い意義を再認識する機会を提供し、漢字文化の啓発と深長に寄与しました。

① 今年の漢字®

『今年の漢字®』は、一年を振り返り世相を表現する漢字一字を考えることで、漢字の持つ奥深い意義を再認識していただく機会として、1995 年から毎年実施している行事です。11 月に、全国からその年の世相を表す漢字一字とその理由を公募し、最も応募数の多かった漢字を12 月12 日に清水寺（京都市）の森清範貫主の揮毫により発表しました。2025 年は、応募総数189,122 票のなかから「熊」が23,346 票（12.34%）を集めて1 位となりました。

② 今、あなたに贈りたい漢字コンテスト（文部科学省他後援事業）

“漢字がつなぐ絆”をテーマとして、「想いを込めた漢字を贈る」ことで人との絆を感じるきっかけや大切な人への想いを改めて認識する機会をつくることを目的とし、漢字を贈るメッセージコンテストとして全国から広く作品を募集しました。13 回目となった今回は6 月1 日から9 月19 日の募集期間において、「小学生部門」に5,338 作品、「中学生部門」に18,992 作品、「高校生部門」に23,688 作品、「大学生・一般部門」に1,706 作品、また「その他」として13 作品、合計49,737 作品の応募がありました。その中から以下60 作品と団体賞受賞10 団体を決定し、3 月20 日に漢検 漢字博物館・図書館において、審査員の橋本五郎氏、華雪氏、ゴルゴ松本氏、やすみりえ氏、および文部科学省生涯学習推進課長が参列し表彰式を執り行いました。

<賞区分>

・絆大賞（文部科学大臣賞受賞作品の中から1 作品）	1 作品	
・文部科学大臣賞(各部門につき1 作品)	4 作品	
・日本漢字能力検定協会賞(各部門につき1 作品)	4 作品	
・審査員賞(各部門につき3 作品)	12 作品	
・佳作	40 作品	合計 60 作品
・団体賞	10 団体	

応募のあった「贈りたい漢字」は計1,791 字でした。

4 部門を合計した「贈りたい漢字」は、「謝」が最も多く、順に「感」「愛」「笑」「楽」「幸」「恩」「優」「友」「支」などの漢字が並びました。部門別の応募数の多かった「贈りたい漢字」は下記の通りです。

順位	小学生部門	中学生部門	高校生部門	大学・一般部門
1 位	楽	謝	謝	愛
2 位	愛	感	感	謝
3 位	感	笑	愛	幸
4 位	笑	楽	笑	笑
5 位	優	愛	幸	感

なお、昨年第 12 回の受賞作品をまとめた冊子を受賞者および受賞団体へ送付し、PDF をホームページに掲載しました。

③ 各企業とのコラボレーション企画

日本サッカー協会（JFA）との「全力蹴球プロジェクト」をはじめとし、様々な企業と漢字の面白さを啓発するコラボレーション企画を実施しました。

（４）漢字まなび活動助成

日本全国における漢字学習の振興を目指して、当協会以外の団体が行う、地域の漢字学習の振興に寄与する活動に対して、その活動費用の一部を助成する制度を、2017 年度より開始しました。活動 1 件あたりの助成金額は、活動に係る予算の二分の一以下かつ上限 30 万円としてホームページで公募した結果、本年度は、4 団体 6 件の活動に対して助成し、漢字学習の振興に寄与しました。

（５）支援活動

経済的、環境上の理由により検定の受検や漢字学習が困難な児童・生徒に対し、漢検の受検機会や学習書籍を無償で提供する学習支援を行いました。受検を通して日本語に親しむ機会を持つことで、漢字の運用能力や学習意欲の向上に繋がったと考えます。

【本年度の対象および支援者数】

・要保護児童生徒（義務教育課程在籍者）無償受検	延べ 176 団体	752 名
・児童自立支援施設無償受検	延べ 145 団体	2,147 名
・児童養護施設/児童心理治療施設への学習教材の無償提供	延べ 197 団体	3,929 冊

2. 日本語・漢字に関する調査及び研究活動

日本の漢字とは何かを、漢字そのものの字体論や意味論等の側面から研究するのみならず、日本文化の側面からも研究する漢字文化研究や、日本語・漢字学習の普及啓発・支援活動ならびに日本語能力育成活動の深化と発展に資する研究活動を行いました。

（１）漢字文化研究

広く漢字文化に関わる分野における優れた学術的研究・調査等を行う若い世代の支援や学会の支援を行うことで、さらなる漢字研究の発展に寄与しました。

① 漢検漢字文化研究奨励賞

広く漢字文化に関わる学術的研究・調査等のうち、将来一層優れた展開が期待され、有望視される学究に対して、漢字文化研究奨励賞を授け、顕彰しました。本年度は 7 点の論考が寄せられ、以下 3 名の論文が選ばれました。受賞論文を「漢字文化研究 第 16 号」として刊行するとともに、協会ホームページにも公開し、更なる研究の深化を奨励しました。

各賞	受賞者（敬称略）	論文タイトル
最優秀賞	該当無し	
優秀賞	康 凱欣（コウ カイキン） 東京大学大学院人文社会系研究科 博士後期課程単位取得満期退学	和漢聯句専門韻書の利用実態

佳 作	王 竣磊（オウ シュンライ） 東京大学大学院人文社会系研究科 博士後期課程学生 日本学術振興会特別研究員 DC2	近世唐音における声調の扱い
佳 作	宮武 衛（ミヤタケ マモル） 京都大学・京都府立大学非常勤講師	蒼蒼とした月について

② 日本漢字学会

学術団体「日本漢字学会」の事務局機能を本年度も引き続き担い、12月6日・7日に第8回研究大会を大阪大学箕面キャンパスにおいて、対面とオンラインで開催しました。口頭による研究発表 12編に加え、放送大学大阪学習センター所長・大阪大学大学院文学研究科名誉教授・日本学士院会員である金水敏先生による記念講演会を行い、会員・一般の方あわせて約 150 名が参加しました。

（2）日本語・漢字教育研究

漢字・日本語教育の実践的な研究活動の支援や検定結果データ・外部データの分析調査ならびに学際研究を行うことで、さらなる日本語・漢字教育研究の発展に貢献しました。

① 漢字・日本語教育研究助成制度

学校教育法に定められている学校等の教職員が行う漢字・日本語（国語）教育の実践的な研究活動に対して、研究活動費の助成を行っています。本年度は 14 件の応募をいただき、選考委員会による審査の結果、2 件が採択となり 2026 年度研究活動費の助成を行うことが決定しました。

所属機関	研究（代表）者	研究題目
筑波大学 人文社会系国際日本研究学位プログラム・特任研究員	吉 甜（キチ テン）	生成 AI は「辞書」としてどこまで有効か—和語動詞と漢語動詞の使い分けを中心に—
名古屋市立大学大学院医学研究科こころの発達医学寄附講座助教	車井 元樹（クルマイ モトキ）	学習困難児における漢字・読み書き習得の早期支援モデル構築に向けた評価手法の妥当性検証

② 検定の質的向上と能力判定の妥当性を高めるため、以下の分析を行いました。

・ 出題妥当性の検証と観点追加の検討

受検者データや解答データをもとに統計分析を行い、各問題の出題妥当性について検証を実施しました。「項目分析」や「経年変化・検定回変化検証」など、多面的な検証が行えるように観点・指標の研究も進めました。

・ 受検者の誤答傾向の調査

漢検の答案に書かれた文字を分析し、各問題の誤答傾向を把握、「間違いやすい漢字」「学習時のポイント」の抽出を試みました。

・ 京都大学との研究プロジェクト「人工知能（A I）による漢字・日本語学習研究」の成果を活かした答案分析等

上記誤答分析を AI を利用して大規模・迅速に行う方法について検討を行いました。

・ 一般に使用される語句の調査

新聞記事等の外部テキストの分析を通して、社会における漢字使用の実態を把握するための調査を行いました。

③漢字・日本語学習に関する学際研究

・ことばの学びEBPM推進支援

東京大学大学院教育学研究科および早稲田大学の学術研究者の協力のもと、「ことばの学び診断システム（仮）」の開発に必要な「認知診断モデル（CDM）」を応用した評価ツール開発を目指して共同研究を行いました。

・未来のリテラシー育成支援

青山学院大学と「学習科学青山研究所」を創設。AI 校正支援ツールがリテラシー育成に及ぼす影響、および AI やピア（仲間）との共同推敲がリテラシー育成に及ぼす影響とその評価の在り方について共同研究を行いました。また、その研究成果をもとに「文章表現力育成・評価支援サービス『つむぎ AI』」を開発し、提供を開始しました。

・言語活動に関する認知・身体機能支援

兵庫教育大学の学術研究者の監修のもと、これまでの京都大学大学院医学研究との研究成果を活用し、漢字テストの結果から認知能力を推定する技術や、文章データから認知症の進行を予測する技術の確立のための研究を行いました。また、それらの技術をもとに「AI 認知症予防日記アプリ『cognikey（プロトタイプ版）』」を開発し、提供を開始しました。

3. 日本語・漢字に関する能力育成活動

普及啓発活動によって日本語・漢字に興味関心を持った人々に学習する機会を広く提供するため、研修会、教材の発行等を行い、その学習成果と達成度を測る検定試験を実施し、合格証明書の発行を行いました。

(1) 「日本漢字能力検定」（文部科学省他後援事業）の実施報告

漢字能力を測定する技能試験を実施することで、人々の漢字・日本語学習への関心を高め、学習意欲を喚起し、生涯学習の推進に寄与しています。3 歳から 103 歳まで、様々な目的・目標をもった受検者が漢字検定に挑戦しました。

①検定級および検定料

級	検定料（税込）	
	公開会場 （個人受検・団体公開会場受検）	準会場 （団体受検）
1 級	6,000 円	－
準 1 級	5,500 円	－
2 級	4,500 円	3,500 円
準 2 級～4 級	3,500 円	2,500 円
5 級～7 級	3,000 円	2,000 円
8 級～10 級	2,500 円	1,500 円

②実施日

2025 年度は、年間 13 日程実施しました。

回	公開会場日程	対象級	準会場日程	対象級
第 1 回	2025 年 6 月 15 日（日）	1～10 級	2025 年 6 月 13 日（金）	2～10 級
			2025 年 6 月 15 日（日）	2～10 級
			2025 年 6 月 28 日（土）	2～10 級

			2025 年 7 月 4 日 (金)	2～10 級
第 2 回	2025 年 10 月 19 日 (日)	1～10 級	2025 年 8 月 21 日 (木)	2～10 級
			2025 年 10 月 19 日 (日)	2～10 級
			2025 年 10 月 24 日 (金)	2～10 級
			2025 年 10 月 25 日 (土)	2～10 級
			2025 年 11 月 7 日 (金)	2～10 級
第 3 回	2026 年 2 月 15 日 (日)	1～10 級	2026 年 1 月 23 日 (金)	2～10 級
			2026 年 1 月 31 日 (土)	2～10 級
			2026 年 2 月 6 日 (金)	2～10 級
			2026 年 2 月 15 日 (日)	2～10 級

③会場数

	第1回	第2回	第3回	計
公開会場	138	130	136	404
準会場	8,793	11,106	9,478	29,377
合 計	8,931	11,236	9,614	29,781

④漢検 CBT (Computer Based Testing)

通常の年 3 回 13 日程の検定日に限定せず、より多くの受検機会を設けることを目的として、コンピューターを利用した漢検 CBT を実施しました。

	会場数	志願者数
公開会場	244	59,353
準会場	82	1,652
合 計		61,005

⑤漢検オンライン

通常の年 3 回 13 日程の検定日に限定せず、より多くの受検機会を設けることを目的として、タブレットを利用した漢検オンラインを実施しました。

	団体数	志願者数
個人受検		2,903
団体受検	715	5,565
合 計		8,468

⑥志願者数・受検者数・合格者数

2025 年度の志願者数は 1,294,214 人でした。回・級ごとの内訳は次のとおりです。

第1回

	1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	9級	10級	計
志願者数	943	4,877	34,405	56,672	86,279	49,172	42,874	22,065	21,714	22,114	19,252	16,071	376,438
受検者数	856	4,415	32,888	54,993	83,805	47,257	41,186	21,187	20,839	21,124	18,492	15,123	362,165
合格者数	75	589	8,496	20,016	40,414	23,646	29,097	16,953	18,379	17,630	16,722	14,564	206,581
合格率(%)	8.8%	13.3%	25.8%	36.4%	48.2%	50.0%	70.6%	80.0%	88.2%	83.5%	90.4%	96.3%	

※4/1～7/31までの漢検CBT・漢検オンライン含む

1級～10級合格率

57.0%

第2回

	1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	9級	10級	計
志願者数	910	4,588	33,322	62,093	117,792	62,552	42,262	24,419	23,668	23,171	19,934	14,680	429,391
受検者数	812	4,118	31,473	59,330	112,102	59,277	40,054	23,416	22,746	21,964	19,015	13,572	407,879
合格者数	124	584	9,898	21,820	55,948	29,594	27,770	17,609	19,394	17,597	16,568	12,622	229,528
合格率(%)	15.3%	14.2%	31.4%	36.8%	49.9%	49.9%	69.3%	75.2%	85.3%	80.1%	87.1%	93.0%	

※8/1～11/30までの漢検CBT・漢検オンライン含む

1級～10級合格率

56.3%

第3回

	1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	9級	10級	計
志願者数	977	5,455	33,889	53,666	81,871	50,294	55,758	46,004	45,141	44,651	39,192	31,487	488,385
受検者数	867	4,839	31,607	50,224	75,967	46,619	51,916	43,211	42,273	41,659	36,567	29,058	454,807
合格者数	117	1,718	11,088	19,887	37,382	24,431	38,614	33,673	35,986	34,114	32,268	27,128	296,406
合格率(%)	13.5%	35.5%	35.1%	39.6%	49.2%	52.4%	74.4%	77.9%	85.1%	81.9%	88.2%	93.4%	

※12/1～3/31までの漢検CBT・漢検オンライン含む

1級～10級合格率

65.2%

2025年度総計

	1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	9級	10級	計
志願者数	2,830	14,920	101,616	172,431	285,942	162,018	140,894	92,488	90,523	89,936	78,378	62,238	1,294,214
受検者数	2,535	13,372	95,968	164,547	271,874	153,153	133,156	87,814	85,858	84,747	74,074	57,753	1,224,851
合格者数	316	2,891	29,482	61,723	133,744	77,671	95,481	68,235	73,759	69,341	65,558	54,314	732,515
合格率(%)	12.5%	21.6%	30.7%	37.5%	49.2%	50.7%	71.7%	77.7%	85.9%	81.8%	88.5%	94.0%	

※4/1～3/31までの漢検CBT・漢検オンライン含む

1級～10級合格率

59.8%

※志願者数には、漢検 CBT 志願者、漢検オンライン志願者および当協会が判断した事由（伝染性病症や天災地変など）により今年度受検を申し込み、次年度以降に実施日を繰り越し、もしくは検定料を返金した志願者を含む。

⑦資格活用状況調査

全国の大学・短期大学、高校における「漢検」の活用状況を調査しました。調査結果は次のとおりです。

学校区分	調査対象数	回答数	活用校数
大学・短期大学	1,079	1,077	672
高校	5,429	4,066	2,760

⑧成績優秀者表彰

漢字学習に取り組んでいる人への努力を賞し、さらなる学習の励みとしていただく目的で、本年度「漢検」を受検した方や団体の中から「成績優秀者および団体」を決定しました。(2024年度より「文部科学大臣賞」(個人賞:1～3級上位得点者より、各年度各級1名、計5名 団体賞:4団体)を新設)。2026年7月10日に成績優秀者表彰特設サイトをWEB上に開設する予定です。また、個人の部については、2026年8月10日(月)に成績優秀者表彰式にて授与式を行う予定です。

個人賞 計224名・家族6組

◇文部科学大臣賞	1～3級	合計 5名
◇日本漢字能力検定協会賞	1～10級	合計 36名
◇全国検定振興機構理事長賞	1～10級	合計 36名
◇優秀賞	1～10級	合計 36名
◇奨励賞	1～10級	合計 107名
◇特別賞		
＜個人の部＞ 級を問わず年間での最高齢合格者		2名
1級・準1級各級の最年少合格者		2名
＜家族の部＞		6組

団体賞 計359団体

◇文部科学大臣賞	4団体
◇最優秀団体賞	20団体
◇優秀団体賞	98団体
◇奨励賞	137団体
◇特別賞	100団体

※受賞者・受賞団体数は2026年4月27日時点のもの

⑨各種表彰制度

・「満点賞」

満点合格者の努力を称え、さらなる学習の励みになるよう、各級に満点で合格された方に、満点合格証書を発行しました。当年度の満点合格者は延べ25,057名でした。

・「家族受検表彰制度」

生涯学習の奨励と受検者の学習意欲向上を目的として、家族そろって合格した場合に、個別の合格証書に加えて、合格した家族全員の氏名が入った「家族合格表彰状」を申請希望により授与しました。当年度の希望家族数は3,202件でした。

・「団体内表彰制度」

受検者の学習意欲の向上を目的として、各団体が独自の基準で合格者を表彰できるよう、「表彰支援セット」を制作し、「同一回内の志願者数が合計30名以上」の条件を満たした希望団体377団体に893セットを送付しました。

(2)「BJT ビジネス日本語能力テスト」(文部科学省他後援事業)の実施報告

主として日本語を母語としない外国人を対象にした国内企業および在外の日系企業で活躍できるビジネス日本語の能力を育成するテストをコンピューターを利用したC B T (Computer Based Testing)で実施することで、外国人ビジネスパーソン日本語学習支援に寄与しました。

①受験料

7,000 円（税込、日本国内）

②実施日

各テスト会場の開設日時に応じて随時

③実施地

国内：51 都市 63 会場

海外：20 国／地域 64 会場

④志願者数

	志願者数
国内	5,321
海外	2,857
合計	8,178

(3)「文章読解・作成能力検定」(文部科学省他後援事業)の実施報告

漢字学習の先にある、日本語文章を読み解き、作成する能力を育成するための技能検定を実施することで、他者が発する情報を正確に読み取り、自分の考えを的確に伝えるといった人々のコミュニケーション能力の向上に寄与しました。

①検定級および検定料

2 級：4,000 円 準 2、3 級：3,000 円 4 級：2,000 円

②実施日

2025 年度は、年間 6 日程実施しました。

公開会場日程	対象級	準会場日程	対象級
2026 年 2 月 15 日（日）	2～4 級	2025 年 7 月 16 日（水）	準 2～4 級
		2025 年 8 月 22 日（金）	準 2～4 級
		2025 年 11 月 14 日（金）	準 2～4 級
		2026 年 1 月 21 日（水）	準 2～4 級
		2026 年 1 月 30 日（金）	準 2～4 級
		2026 年 2 月 15 日（日）	2～4 級

③会場数

	第1回	第2回	第3回	合計
公開会場			3	3
準会場	33	112	145	290
合 計	33	112	148	293

④志願者数・受検者数・合格者数

2025年度総計

	2級	準2級	3級	4級	計
志願者数	971	4,624	11,205	6,032	22,832
受検者数	910	4,356	10,318	5,413	20,997
合格者数	703	2,927	6,935	3,909	14,474
合格率(%)	77.3%	67.2%	67.2%	72.2%	

2級～4級合格率

68.9%

⑤ 文章力テストの実施

企業等の団体において、任意の日時・場所で受検できる文章力テストを実施し、2,822 人が受検しました。

⑥ 文章能力養成のための研修および学習・アセスメントツールの提供

企業・大学等の団体に対して、集合型・オンラインによる研修や文章学習・アセスメントツール「論理的文章力トレーニング」シリーズ（利用者 5,627 人）を提供しました。

(3) 学習支援講座

漢字や日本語について深く学ぶ機会を提供することで、漢字・日本語教育の振興に寄与しました。

①漢検生涯学習ネットワーク研修会

漢検1級・準1級合格者に漢字や日本語についてより深く学ぶ機会を提供するため、漢検生涯学習ネットワークを組織しています。メールマガジンでの情報提供や、会員限定イベントを開催しました。

1級合格決起集会

日時：2025年11月15日（土） 13:30～15:30

場所：漢検 漢字博物館・図書館（漢字ミュージアム）

ゲスト：きくりん氏（タレント）

申込者：52名

②漢字教育サポーター紹介制度

漢検の上位級（1級・準1級）の合格者で、一定の専門的知識を有している者（「漢検生涯学習ネットワーク」会員で「漢字教育サポーター育成講座」を修了した者）を漢字教育サポーターとして登録し、そのプロフィールをホームページ等で公開することにより、講座の開講を希望する団体等に紹介する学習支援活動を行いました。紹介実績 20 件。

漢字教育サポーター登録者数：810 名

(4) 教材の発行

あらゆる分野のあらゆる年齢層の人々に対し、その多様な学習ニーズに応える教材として、次の学習教材を提供することで、広く一般の人々に対し学習の機会を提供しました。

① 検定・テストに対応するもの

「漢検 漢字学習ステップ」「漢検 過去問題集」「これでなっとく！漢検クイックスタディ」「漢検 らくらくまるつけ いちまると本番対策！」「文章力ステップ」ほか

・・・・・・847,347 冊

②日本語・漢字への興味関心を喚起するもの

「漢検 漢字辞典」「漢字謎解き ナゾクエスト 伝説の宝箱をさがせ!」「あっちこっち さがそ! 漢字はっけんずかん」「マンガで体験! にっぽんのカイシャ」「それ、知りたかった! カイシャの日本語〜マンガで学ぶ ビジネススキル&ボキャブラリー〜 難易度別語彙表付き」ほか

・・・・・・15,013 冊

合計 862,360 冊

また、上記の有料の教材や参考書だけでなく、無料で利用していただける教材も制作し、教育現場等を通じて提供しました。

① 検定・テストに対応するもの

「漢検 50 問プリント」「漢字学習サイクルプリント」ほか

・・・・・・346,875 部

② 日本語・漢字への興味関心を喚起するもの

「漢字でわーく・わーく」「漢字王国と僕と私の不思議な 15 日間」ほか

・・・・・・1,063,975 部

合計 1,410,850 部

③その他デジタル教材

「漢字学習アプリ『いちまると旅しよう! しりもじ漢検』」「作文学習アプリ『いちまるとはじめよう! ことばむすび』」「AI 認知症予防日記アプリ『cognikey (プロトタイプ版)』」「文章表現力育成・評価支援サービス『つむぎ AI』」ほか

Ⅱ．理事会・評議員会に関する事項

2025年度の理事会・評議員会の開催状況は以下の通りである。

・理事会（定例）

日 時：2025年6月5日（木）午前10時～

場 所：当協会 京都本部および非常勤役員の活動拠点（web会議）

出席者：理事7名、監事2名

・評議員会（定時）

日 時：2025年6月20日（金）午後1時30分～

場 所：当協会 京都本部

出席者：評議員8名、理事3名、監事2名

・理事会（臨時）

日 時：2025年6月20日（金）午後4時～

場 所：当協会 京都本部および非常勤役員の活動拠点（web会議）

出席者：理事9名、監事2名

・理事会（定例）

日 時：2025年9月3日（水）午前10時～

場 所：当協会 京都本部および非常勤役員の活動拠点（web会議）

出席者：理事8名、監事2名

・理事会（定例）

日 時：2025年12月4日（木）午前10時～

場 所：当協会 京都本部および非常勤役員の活動拠点（web会議）

出席者：理事8名、監事2名

・理事会（定例）

日 時：2026年3月5日（木）午前10時～

場 所：当協会 京都本部および非常勤役員の活動拠点（web会議）

出席者：理事8名、監事2名

・評議員会（臨時）

日 時：2026年3月26日（木）午後2時～

場 所：当協会 京都本部および評議員の活動拠点（web会議）

出席者：評議員9名、理事3名、監事2名

Ⅲ. 運営体制の充実を図るための取組

- (1) 法令等遵守（コンプライアンス）体制の強化
 - ・法令遵守を徹底するため、匿名での利用が可能な社外弁護士を含む複数の内部通報窓口を設置し、全職員（パート、アルバイト含む）に周知し運用している。
 - ・全役職員を対象に、個人情報保護に関する研修を年2回実施している。
- (2) 組織運営（ガバナンス）の透明性と公正性の確保
 - ・評議員の選任については、「評議員選定委員会運営規程」に基づき、理事会とは独立した評議員選定委員会を設け選任している。
 - ・理事のうち1名以上を外部理事とすることが義務付けられているが、本年度、常任理事3名、外部理事7名となっている。
 - ・理事会、評議員会の議題資料を事前共有することで審議の実効性の向上に努めている。
- (3) リスク管理・監査体制
 - ・外部監事（現2名）が、監事監査職務を補助すべき者の配置を求めた場合、理事会は、その求めに応じて十分な監事監査ができる監事監査補助者体制を整えることが「監事監査規程」に定められており、1名の監事監査補助者を任命している。
 - ・監査法人と委託契約し独立監査人による任意監査も実施している。
 - ・「リスク管理規程」を整備し、管理職によるリスク小委員会を月1回、役職員によるリスク管理委員会を年1回開催している。リスク事象が発生した際には「影響・被害の範囲」「原因」を特定の上、実効性のある「再発防止策」を策定し、役員・管理職への周知により再発防止に努めている。

Ⅳ. その他

特記事項はありません。

Ⅴ. 後発事象

該当ありません。

Ⅵ. 附属明細書

2025年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので附属明細書は作成しません。

2026年 6月

公益財団法人 日本漢字能力検定協会